

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200897		
法人名	医療法人社団 白眉会		
事業所名	エルダービレッジグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市西区樫谷町福谷882		
自己評価作成日	平成23年6月18日	評価結果市町村受理日	2011年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成23年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても日々の生活においては、喜怒哀楽を無くさず人として、当たり前前に生きる事を事業所の方針としてきました。開設して11年目を迎えましたが、これからは、実践を通して培ってきた様々な物をどのように、地域社会に還元できるかを考えております。その一環として認知症サポーター養成講座の開催には、事業所として積極的に関わっています。又、認知症相談窓口も開設しております。そして、ケアの質を高めるには、職員の自己研摩も重要な課題として考えております。その為には、外部研修や認知症介護実践者研修については、事業所上げて推奨しています。当然ながら、研修に掛かる一切の費用は事業所負担、それに掛かる有給休暇の取得も推奨しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の病院はじめ各施設は、西神中央駅からバスで10分ほどの住宅街の一角に位置している。事業所の裏はゴルフ場のため緑に囲まれ、侵入路入口は広々とした公園に隣接している。昨年9月に、法人母体の病院が民事再生法の適用を申請した。当事業所も影響を受けたが、管理者は市担当者と相談を重ね、利用者や家族が不安を抱かないよう説明を何度もし、職員とともに建て直しを図った。特に利用者には寄り添いの介護に努め、不安を解消することができた。運営推進会議も5月に再開し、管理者としては、職員とともに今後は地域密着型サービスの充実に努めたいと考えている。地域住民対象の認知症サポーター養成講座を続けているが、事業所が持つ認知症高齢者介護の知識を活かして、地域の相談窓口的存在になることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果 1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開設時の職員と代表者で作成。その後は、事業所理念とは別に自分達の目標やサービスの有り方を作成している。	職員は理念を日々の業務に活かせるよう毎朝申し送り後に唱和している。さらに職員は毎月、理念実践のための個々の課題を業務目標として立て、利用者に我が家であると感じてもらえるような介護を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課に買物の日を取り入れ、定期的に近隣のスーパー等に出かけている。	事業所周辺地域は高齢化が進み地域との交流は少なくなっている。管理者は関係者に挨拶に行き、今後小学校と老人会合同の地域運動会などに参加ができればと考えている。認知症サポーター養成講座は、事業所主催として年1回実施し、地域貢献を続けている。	住民として地域と交流することは利用者の楽しみの1つであり、交流の場を広げることを前向きに続けてほしい。認知症講座は地域の高齢者介護に役立つ活動となるので、継続に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座の講師役をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況から、法人の有り方まで全て報告。それに対するアドバイス等を頂いている。会議には管理者のみの出席ではなく。常勤、非常勤問わず参加している。	昨年9月以降は法人の都合により運営推進会議開催を中断せざるを得なかった。今年5月に、家族、他グループホーム管理者、安心すこやかセンター職員の出席のもと、平成23年度第1回を開催した。法人のあり方や職員体制などを報告し、今後の取り組みについての意見交換を行った。	地域との交流を広げるためにも、地域関係者の出席を引き続き依頼してはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情については、その都度、担当者に連絡して、助言や指導を頂いている。生活保護の方の対応方法についても相談している。	事業所の実情を市担当者に報告し、事業所の健全な運営のための的確な指導をいただいている。生活保護や成年後見制度利用の相談に関しては、担当者と連絡を取り合っている。3ヶ月に1回の西区グループホーム連絡会には、市担当者が出席し情報提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、緊急時以外は施錠していない。その他の拘束に値する部分は、その時々に応じて施設内研修をおこなっている。	入職時に「禁止の対象となる具体的な行為」等の研修を行い、職員は身体拘束の弊害を認識している。事業所内はエレベーター乗降も自由で、玄関はチャイムの反応のみで夜間帯以外は開錠している。職員は介護の中で安全確認をしながら、利用者の思いを大切にしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体において、不明な打撲痕等があれば、全職員で話し合い共有している。また、考えられる要因や環境改善に努めている。	高齢者虐待に関する研修には希望職員が参加し、内部勉強会で内容を共有している。職員の笑顔が利用者の笑顔を生み出すとして、年2回職員個々に「ストレス簡易調査表」に記入。管理者がその結果を分析し、個別面接を行い、ストレスマネジメントに努めている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は施設内研修にて理解出来るように努めている。利用者の権利については、施設内の掲示板に張り出し、全ての方々に見て頂ける様にしている。	成年後見制度の利用対象の利用者が1名いるので、関係機関と話し合っている。権利擁護制度等に関しては、勉強会を通して職員の理解は十分とはいえないので、学ぶ機会を増やしていきたいと、管理者は考えている。	家族が理解し必要なときに活用できるよう、家族会の席で制度に関する資料を配布・説明し、周知を図かれてはいかかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における説明後、更に1週間の時間をおいて再考して頂いてから、契約締結に至っている。	契約内容は時間をかけて説明し、疑問点は理解が得られるまで話し合っており、理解と納得の上での契約としている。緊急時や医療に関する事業所の対応への質問は多く、併設病院や有床のクリニックとの連携を説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書及び施設内掲示板に、外部への苦情相談窓口の連絡先を明記している。運営推進会議の議事録を全ての家族に送付する事を検討中。	家族会は年2回。事業所の運営状況や利用者の生活状態説明後、家族同士の交流時間を多くとっている。出された意見等は代表者が管理者に伝え、職員とも話し合い、できるだけ実現を図っている。毎月の費用払い込み来訪時には、家族から意見や要望を引き出す努力をしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の全体ミーティングにて、運営状況の情報は積極的に管理者から情報開示されている。職員からの提案までには、至っていない。	法人の民事再生法適用申請に関しては、職員間に動揺が広がり退職者も出た。管理者と職員は決意を新たにして、利用者が不安を感じないように寄り添いの介護に努めた。また緊急時連絡方法、介護記録の様式改良や作業用の高い脚立購入などは職員の提案を実行した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の状況を把握し、職場改善に努めているが、管理者だけでは無理があると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加及び、実践者研修を推奨しており参加費用も全て施設が負担している。又、職員の希望があれば、個別研修等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区GH連絡会に参加しており、情報交換をしている。外部からの実習生を積極的に受け入れ職員間の相互交流を図れる様にしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決めてマンツーマンで過ごす時間を取り、そこから利用者の不安や要望を聞き出せるような関係作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までには、時間の許す限り施設に来て頂き話し合いをしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人のニーズが乖離していると思われる際は、時間を掛けて話し合う。また必要であれば他の社会資源を納得して活用して頂く様にしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ありきではなく、入居者同士の関係作りが出来る様に支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはケアプランの内容を説明しアドバイスを頂いている。誕生日には家族と入居者の外出を最優先に考えて、計画を立案している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の記憶の中から馴染みの風景や場所を引き出す関わりをしている。田植えや野菜の栽培を通して馴染みの場所を回想できるようにしているが、出かけるまでには至っていない。	遠方の出生地を懐かしむ利用者には、写真や雑誌を見ながらゆったりと思い出話を聞き、利用者のかけがいのない人生への想いが、途切れないような支援にも配慮している。知人や友人の来訪を歓迎しているが少なく、年賀状のやり取りを通じての友人関係の継続支援は行っている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意図的に職員が介入してリビングの席決めや、レクレーションを通して利用者同士の関係性を構築している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的に施設からの支援は行っていない。職員が個人的には、転居先の施設等に面会に行く事はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案から日常生活において、先ずは本人に意向を聞く様に努めている。それらを踏まえて、職員間で共有して話合っている。	入居当初は遠慮があり、自分の思いを言うのをためらう利用者があるので、信頼関係を築くことを大切にし、少しずつ真意を引き出すよう努めている。言葉が出ない利用者に関しては、日々の生活の中での職員の気づきを共有し、家族にも確認し、月2回のミーティングで検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、これまでのサービス利用状況の把握に努めている。又、同意を得た上で、現在利用中のサービス事業所との情報共有に務め、面談に赴くようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録は全職員が、利用者の様子や排泄状況を記入している。又、記録の書式は常時見直しを行い、その都度変更し利用者の状況が把握できる様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のミーティングにて、ケアプランの評価、考察を行っている。家族には面会時に支援内容を説明し、アドバイスを頂いている。記録様式を見直し、ケアプランと日常の記録をより密に連動出来る様に変更している	利用者担当制をとり、職員個々の気づきはミーティング時に全員で共有している。「ケアプラン案シート」に利用者の状態に対する関わりと結果の流れを記録し、モニタリングを充実させ、的確な見直しを行っている。プラン原案を家族に確認し、主治医の診断も参考にして完成させている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの利用者の状況に応じて、記録の方法を工夫している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者のニーズに応じた支援を臨機応変に対応している。施設の買物に同行して頂く、事務作業を手伝って頂く、来客へのお茶出し等。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用にまでは至っていないが、コーラス、書道、ドッグセラピー、銭太鼓、話し相手等のボランティアを毎月受け入れている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医があれば、推奨している。その際は、事業所より家族を通して情報提供、必要であれば、文章等で情報提供に努めている。かかりつけ医とは別に、併設のクリニックの受診を希望される際は、そちらの受診も可能である。	ほとんどの利用者は納得して、法人の協力医をかかりつけ医としている。以前からのかかりつけ医の受診に関しては原則家族と通院している。通院時、本人の日常の情報を家族を通して医師に伝え、受診後医師の指示を記録する等情報の共有を図り、適切な医療が受けられる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のクリニック看護師と日常的に相談、情報提供を行っている。又、医師との連絡調整も担って頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は速やかに行える様に事業所での生活や本人の状況を文章にて提供。急変時や重度の疾病になった際は、併設のクリニック医師の紹介により入院出来る体制がある。	入院のリスクを回避するため、病院の関係者と連携を取り、早期退院に向けた取り組みに努めている。併設クリニックの継続治療や福祉用具の活用、職員の介助により退院後の支援が行えている。入院中職員は毎週見舞いに行き、安心して治療できるよう配慮している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、見学に来られた際より説明をしている。入居後は本人の状態を本人、家族、医師、事業所で話し合いながら、それぞれの状態に合わせて方向性を決めている。	家族からの看取りの希望があるので、今後段階的に体制を整えて行きたいと事業所では検討している。看護師の配置、職員の不安解消のためのサポート、併設クリニックとの連携等が必要になってくる。	併設クリニックとの協力、職員の看取りに関する研修等を通して、重度化や終末期の支援体制を整えられることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、不定期ではあるが個別で指導している。事故発生時の初期対応はマニュアルを作成しそれに準じて対応。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、通報訓練及び消防署の指導のもと消火器の取り扱い訓練をしている。災害時様に物品を備蓄している。管理者は、災害時対策の講習を受講し、職員に指導している。	新入職員を対象に器具取り扱い訓練を行い、避難経路を確認しているが、避難訓練は行っていない。水、乾パン、電池の備蓄をしている。火災報知機で自動的に隣接の老人保健施設に知らされるようになっている。	火災時を想定して、利用者が無事避難できる訓練を定期的にするよう求める。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	TPOに合わせて言葉を選び、言葉かけを行っている。又、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。呼称に際しては、本人、家族、と協議しその時に応じた形をとるようにしている。	管理者は職員の言葉かけについては、第三者が聞いた時どう映るかを基準に「何故そういう声かけをするか」考えてもらっている。トイレ誘導時は羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先ずは本人に聞く事を心掛けている。判断が出来ない時には、選択肢を減らし、二者択一で選んで貰う等工夫し、可能な限り自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿う様に支援を心掛けているが、行事やクラブ活動がある日は、入居者と職員の間で居り合いをつける様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は本人と共にしている。化粧は本人の出来る範囲内ですて頂ける様に関わっている。理美容は、出張サービスにて本人の好みに応じれる様にしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の運搬から盛り付け、片付けまで本人の能力に応じて支援している。献立に本人の嫌いな物、食べれない物がある際は、常時、代替えの1品を用意して対応している。月1回は外食に出かけている。	主に隣接の老人保健施設で調理しているが、昼食については月の半分位は食材購入、調理も事業所で行う日を設けたり、外食、出前も取る等積極的に食事の楽しみの支援に努めている。職員も一緒に食事し、利用者もお米とぎ、食器洗い、配下膳等当番制で役割分担して手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて適宜、アセスメントを行い必要時にはチェック表等を使い管理している。又、食器を変えたり、水分補給の内容物を個別に変更したりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声を掛けられている。夜間は能力に応じて義歯の管理、洗浄をしている。ケア漏れを防ぐために、チェック表の活用も行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ類は必要最低限の使用に務めている。使用する場合は、それぞれに合った製品を個別で使用している。不必要な声掛けは行わず、トイレの表示を工夫したり、本人の能力を引き出す様に務めている。	排泄パターンを記録して、把握に努めている。トイレ排泄は最低限の座位保持が必要で、身体、精神面の自立にもつながるため、声かけでトイレ誘導し、出来る限り排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの状態に応じて、飲食物の内容変更、時間帯を早朝に切り替える等の工夫をしている。服薬に関しては、看護師や薬剤師と相談した上で個別に対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、毎日入れる状態にしている。それぞれに応じたタイミングや時間で入浴している。希望があれば、気の合う者同士の入浴にも応じている。	入浴日は決めておらず、毎日の入浴も可能である。拒否する人にはその人に応じた声かけで入浴につなげている。羞恥心に配慮したタオルの有効な使用方法を外部研修で学んだ職員が、入浴、排泄時に利用者の信頼を得られた。	利用者、介護者の性差があっても、左記のような羞恥心に配慮した取り組みを継続されたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングには、ソファやマッサージ機、利用者の数以上の椅子を設置し、本人の好むスペースで休める様にしている。玄関にはベンチを設置して外気浴をして頂き、夜間良眠出来るようにリズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬辞典を常備し、個々で知識を学べる様にしている。又、事業所オリジナルの処方箋を作成し管理している。提携している薬局とも連携を図り、服薬についての情報を頂ける体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事は無理強いせずに、その日の状況に応じて支援している。手作業等は、毎月、季節に関する物を取り入れる工夫を行い、個別に支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回、利用者と共に外出計画を立案し出かけている。日常的には、その日の状況により個別でお八つを食べに出かけている。重度の方は、玄関先で飲食して頂いたりしている。	近くへ出かける回数が減ったが、事業所前の畑やグラウンドへ散歩に行っている。月1回は外出を計画的に行っている。利用者の希望で、新開地劇場や舞子公園、乳酸菌飲料の工場見学、喫茶店等にも出かけている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心される方には、個人で管理して頂いている。又、外出、外食、買物の際は、支払いを個々の能力に応じて、財布を渡す、現金を渡す等、個々に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話を利用している。その際、必要であれば代わりに電話を掛ける、会話を補う等の支援をしている。冠婚葬祭等があれば、ハガキの代筆等、個別に合わせて支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ、表札等の表示は見やすい様に工夫を施している。廊下やリビングには、季節に応じた物を展示したり、外出の際の写真、玄関には季節の花を設置したりしている。	天井が高く、中庭があり明るく開放感の感じられる居心地良い建物である。テーブルでの座席の配置は利用者の希望や重度化に対応して変更している。畳のスペースは洗濯物をたたんだり、一人でゆっくりできる居場所として利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを設置しており、それぞれの気の合う者同士くつろげる様にしている。各居室横にはベンチを設置している。リビングには、椅子を多く設置している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの使い慣れた家具類や趣味の物を持参して頂いている。畳生活に慣れている方には、畳を持参して頂いている。入居後は、本人、家族、職員で話し合い、よりよく過ごせる様に適宜、しつらえを変えている。	居室の窓は広く、明るい。室内に洗面所も備えてある。馴染みのものを持ち込まれ落ち着いた雰囲気である。入口には苗字を大きく書いたり、お気に入りの絵を貼ったりして自室が分かりやすい工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの能力、状態に応じて適宜、掲示物を変えたり、注意喚起を促す様な工夫をしている。		